

報告：原発問題をめぐる全体状況

@第100回脱原発八千代ネットワーク定例会

2021年6月26日 川井康郎

1. フクシマの状況

(1) 6/23 東電は福島第二 1~4号機の廃炉作業を開始。最初の10年間は解体準備期間として除染などが中心。廃炉完了は2064年度を予定。使用済み燃料の搬出先は未定。

(2) 福島第一汚染水の海洋放出をめぐる動き

- ・福島県内では59自治体中、これまでに20議会が海洋放出反対の意見書を可決
- ・朝日新聞による首長アンケートによると、海洋放出に反対7、どちらかという反対34、容認0、どちらかという容認5、無回答14人
- ・海洋放出方針の一方で、東電はトリチウム分離技術の公募を開始(5~9月)。ポーズだけか？

2. 原子力規制と再稼働の動き

(1) 6/23 老朽原発(運転開始から44年経過)の美浜③が再稼働、稼働中原発は大飯④、高浜③④、玄海③④、川内①②を併せて8基となった。

(2) 6/21 関西圏の住民9名は美浜③の運転禁止を求める仮処分を大阪地裁に申請。「経年劣化による危険性大」「事故が起きた場合は200万人に影響」などを主張。



3. その他のトピック

(1) 6/16 中国環境省は広東省の台山(タイシャン)原発で燃料棒の破損により放射性希ガスが大気中に漏れたと発表。安全面での基準は満たしており運転は継続中と。技術は仏フラマトム(旧アレバ)社製のEPR160万KW。

(2) 5/29 姫路市の日本製鉄瀬戸内製鉄所構内にて、作業員二人がX線照射のメッキ厚さ測定装置点検中に被ばくして体調不良を訴え。年間限度線量の50mSvを大幅に超えた可能性があり、広島大の「高度被ばく医療視線センター」に搬送し検査・治療中。

(3) 6/16 自衛隊基地や「原発」周辺の土地利用を規制し、利用状況を調査できる土地利用規制法が国会にて成立。私権制限や恣意的運用が懸念される。

(4) 6/13、G7は石炭火力への新規輸出支援を終了させることを合意(欧米はすでに実施済)。日本は相手国からの要請と高効率技術を条件として、これまで融資等の支援を継続させてきた。

(5) 33年目を迎えた「たんぼぼ舎」の活動方針。①伝え合い、話し合う場を作る、②汚染水の海洋放出反対と福島原発震災への取り組み、③東海第二原発再稼働阻止、④日本核武装・核兵器技術の蓄積を絶つ、⑤運動課題を共有できる団体と共闘、⑥東京で出来ることを進める、⑦放射能汚染食品等の測定、⑧たんぼぼ舎のさらなる充実